

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2017年2月27日

東京大学での所属学部・研究科等:	教育学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	ルートヴィヒ=マクシミリアン大学 ミュンヘン
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	✓ 3. 公務員		4. 非営利団体
	✓ 5. 民間企業(業界: 未定)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

ルートヴィヒ=マクシミリアン大学ミュンヘン(通称ミュンヘン大学、LMU)は、1472年創立の歴史ある大学で、ドイツ国内で最も優秀な大学の一つ。ドイツ・バイエルン州の州立大学で、工学部を除く18の学部を有しており(工学教育はミュンヘン工科大学、TUMが担っている)、幅広い分野を勉強することができる。英語で開講されている授業も多数ある。

留学した動機

もともと生まれがドイツであったことから(出生直後に帰国したため記憶にないが、)長いことドイツに興味を持っていた。大学で第二外国語としてドイツ語を学び始めてから「機会があれば何らかの形でドイツに留学してみたい」と漠然とした憧れを抱いており、学部3年の夏にツアーでドイツを訪れたことを機に留学への意志が固まった。教育思想系に興味があったことに加え、学部後期になり進路選択が迫られる中で、自分の視野の狭さを痛感するとともに、自分自身やこれまで育った環境を客観的に見てみたいという気持ちが強くなり、そうした可能性を実現できる貴重な機会だと思い留学を希望した。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2016年	学部4	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2016年	9月~	2017年	2月	
	学部4	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2017年	学部4	年生の	S1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2017年	学部4	年生の	3月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			72	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			未定	単位
	留学後の取得(予定)単位				単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2013年	4月入学	2018年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		ヶ月間		

⑨留学時期を決めた理由:

学部3年の夏に漸く留学への決意が固まったため、4年次に交換留学プログラムへ参加することになった。卒業後の進路への迷いや、学部在学中に様々な経験を通して視野を広げておきたいと思ったこと、多くの教育思想家を輩出したドイツで学んでみたいと思ったことから卒業を一年延ばして留学しようと考えた。帰国後、就職活動の可能性も考えて期間を1学期のみとしたが、留学を終えた今となっては、あと1年早く決断し1年間留学できればよかったと若干後悔している。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

ミュンヘン大学は冬学期の授業開始が10月で、それに伴い受け入れ許可通知等が届くのも他の大学に比べて遅かったためはじめは非常に不安であったが、その後の入学や住居などの手続き関係はすべて指示に従い問題なく行えた。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

日本人渡航者は、ドイツ入国後90日間は旅行用ビザで滞在できる。私は8月に他の街で語学学校に通っていたが、9月にミュンヘンへ移動したのち学生ビザを取得した。ビザの申請についてはミュンヘン市公式サイトの記事を参照。日本で用意する必要のある書類も含まれているので、あらかじめ確認し準備しておくといよい。ビザの申請自体は思いの外短時間で済んだが、ビザ申請のために必要な住民登録の際にかなりの待ち時間を要した。9月・10月は留学生も多く、窓口の開設時間も限定されているため、役所での手続きの際にはなるべく早朝に向かうのが得策。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

渡航前に健康診断を受けたりは特にしなかったが、ドイツで入手できる薬が体に合うか不安だったため、普段服用している市販薬は多めに持参した。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京大学で加入を義務付けられている「付帯海学」に加え、ミュンヘン大学ではドイツの保険にも加入する必要がある。私は「AOK」という保険会社の学生保険に加入したが、「TK」という保険を利用している人も多かった。TKの事務所がミュンヘン大学内にあるため手続きしやすいのかもしれない。AOKの保険料は月々80～90€。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

学生支援チームにて、コース主任の教授の承認印を頂いた留学願を提出し、単位互換に関しての説明を受けた。国際交流担当や教務担当の方々には何度も留学に関する相談や手続き関係の問い合わせをしてしまったが、毎度丁寧に対応してくださり、安心して留学準備を進めることができた。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

ミュンヘン大学では授業をすべてドイツ語で履修しようと考えていたため、英語よりもドイツ語の学習を優先させた。所属学部ではドイツ語系の授業がなかったため、教養学部の授業に顔を出したり、学部3年の春から東京のゲーテ・インスティテュートに通いドイツ語学習を続けた。ただ、ドイツ留学を考え出したのは学部3年の夏と遅く、そこから本格的にドイツ語を勉強して留学申請前に Goethe-Zertifikat B1 を取得、渡航直前の7月末に Goethe-Zertifikat B2に合格した。授業開始前の8月、9月にはドイツ国内の語学学校に通った。英語の試験は長いこと受けていなかったが、念のため同じく渡航前にTOEICを受験した。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

食品や衣類などは人によると思うが、食べ慣れたもの・着慣れたものがある方が安心するのであれば持参するとよい。私の場合、母が日本食を仕送りしてくれたりもしたが、半年間の留学生活で日本食が恋しくなることは思いの外少なかった。そのほか、辞書や参考書等は持参しておくべきだろう。私は電子辞書を持参したが、授業の予習等でドイツ語文献を読む際に重宝した上、試験時にも事前に許可をとって使用することができ大変役に立った(担当教員によっては紙の辞書でないと許可されない場合もあるらしい)。大量の書籍は必要はないと思うが、日本で使用していた書籍等で留学中に必要となりそうなものがあれば最低限持参しておくことで役立つかもしれない。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
教育歴史学(教育学・講義)		●			
和独翻訳中級(日本学・語学)		●			
教育思想家概説(教育学・ゼミ)		●			
ドイツ語CI(大学併設語学学校)		●			
Hannnah Ahrendt(哲学・文献購読)					

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

文献や課題が予め与えられている授業については予習中心、ドイツ語講座では単語や表現の確認・授業で扱った文章の読み直しなど復習中心の学習とした。
履修した授業はどれも刺激的で面白かったが、拙いドイツ語ながら発表する機会を頂けた教育思想のゼミや、日本について学ぶドイツ人学生とドイツ語を学ぶ日本人留学生在が混ざって受講する和独翻訳の授業が特に強く印象に残っている。また、語学学校で「何かアカデミックなこと」というテーマで発表が課せられ、興味のあるドイツの絵本について調査発表できたのも楽しかった。すべての授業を通して特に印象深かったのは、ドイツの学生が積極的に自らの意見を表明していたことである。発言の内容はともかく、どのようなテーマであっても「自分がどう考えているか」をディスカッションの場で堂々と話す学生たちを見て、自分がいかに物事に無関心でいるか・正解以外を発言しないように怯えているかを突き付けられたような気がした。教育学部開講の授業以上に、こうした学生たちの様子から日本の教育について考えさせられることも非常に多かった。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

東大で卒業に必要な単位はほぼ取りきっており、留学での取得単位数の義務なども定められていなかったため、無理のない範囲で履修することにした。一方で、自分の興味が多岐に渡っていたため、興味のある授業には開講学部関係なく出席した。一つ残念だったのは、留学申請時にシラバスに掲載されていた興味のある科目の大半が冬学期に開講されていなかったこと。それでもはじめは履修科目をなかなか絞りきれなかったため、気になる授業全てに足を運び少しずつ取捨選択していった。最終的に履修登録したのはドイツ語講座を含め5コマ、ミュンヘン大学で単位取得したのは4コマ分、そのほかにいくつかの講義を興味のあるテーマを扱っている回のみ聴講するなどした。
教育学部のゼミやHannah Ahrendtの文献購読では予め文献を読んで授業に臨む必要があったため、週の中でも特に時間を費やした。Hannah Ahrendtの課題書籍に関しては、はじめからドイツ語で読むのは非常に困難であったため、邦訳されている書籍を用意して先にそちらを読んでからドイツ語文献を読むことにした。ただ、どうしても時間が足りず、毎回原文を最後まで読み切ることはできなかった。また、日本学(Japanologie)の翻訳の授業の予習にも週1~2時間割いていた。

④学習・研究面でのアドバイス

英語にせよドイツ語にせよ、よほど慣れていない限り、外国語での授業についていくのは至難の業であると思う。私はほぼすべての授業をドイツ語で受講したが、最後まで授業の内容を全部理解することはできなかった。多くの留学経験者がお勧めしているように、履修科目を決める際には、ある程度日本語で予備知識が入っているものを選ぶか、日本語で基礎知識をさらった上で授業に臨むと、語学的にも専門的な内容としても吸収しやすくなるのではないか。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

学期開始の時点でドイツ語はB2を取得していたが、聞き取りが苦手であったため講義やゼミで内容についていくことができず苦労した。教育学のゼミでは毎回授業の後半にグループディスカッションの時間があつたが、議論の内容を理解するのもやっとでほぼ発言することができず、いつも惜しい気持ちでいた。また、もともと内気な性格で人と話すのがあまり得意でなく、ネイティブや他国からの留学生とコミュニケーションをとる際に申し訳なさを感じることもあつた。
ただ、留学生活が進むにつれて次第に耳や口が慣れ、留学当初に比べれば多少はドイツ語でのコミュニケーションにも慣れることができたように思う。ドイツ語習得には、語学学校のほかにもドイツ語でニュースを流したり言語交換パートナーを見つけたりと様々な方法があるので、自分にあう方法を取り入れてみることをお勧めする。

生活について	
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)	<p>ミュンヘン大学の留学申請時に宿泊希望の有無を併せて提出する。市内の各所にミュンヘン大学・TUM(ミュンヘン工科大学)大学の学生が入居できる寮があり、宿泊を希望するとランダムに寮を割り振られる(希望したからといって必ずしも入寮できるとは限らないらしい)。私が滞在していたオリンピック村の学生寮は、大学まで地下鉄一本で通え、スーパーなども近所に揃っている便利なお店であった(ただ、滞在期間中は地下鉄工事が行われており大学や町の中心へのアクセスにやや不便であった)。</p> <p>オリンピック村の学生寮にはマンションタイプのHochhausと小さい一軒家タイプのバンガローがあり、私が滞在していたバンガローの家賃は月335~340€ほど(年明けから若干値上がりした)、Hochhausはそれより少し高いくらいだと聞いている。バンガローの部屋は壁が多少薄かったり照明が暗かったりといった点がやや気になったが、それ以外は、キッチンやシャワー・トイレも個人で使用することができ、半年間暮らすにあたって不便に感じることはなかった。</p>
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)	<p>ドイツは一般的に東京と比べると湿度や気温が低いのが特徴だと思うが、今年度は寒波の影響で冬の冷え込みが特に厳しく、雪や寒さに慣れていない身にはかなりこたえた。私は日本から持参した防寒具を着用していたが、現地でコートや冬靴等を買って揃えている友人もいた(お手頃な価格のものも揃っているらしい)。</p> <p>大学の校舎はいくつかあるが、私が利用していた校舎はいずれも街の中心近くに位置し、カフェやレストラン、書店なども近所にあり通いやすかった。食事は自炊と外食が半々くらい。レストラン等は値が張るので自炊中心にしたかったが、週二回夜遅くに語学学校があった関係で外で食事を済ませることも多々あった。昼食はしばしば学食を利用していたが、早い時間帯に閉まってしまう夕食時に利用できないのが不便であった。</p>
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)	<p>ミュンヘンは治安の良いドイツ国内でも特に安全な街と言われているだけあり、危険な事件や事故に巻き込まれるようなことはなかった。ただ、いくら安全とはいえ住み慣れていない外国での生活、さらにテロをはじめ何かと物騒な世の中なので、日本総領事館が発信する注意喚起のメールマガジンに登録したり、夜遅くに一人で出歩かない、危険そうな場所に不用意に近づかないなど最低限の危機管理は行っていた。テロ等の危険だけでなく外国人旅行者を狙った犯罪にも用心したい。</p> <p>健康管理に関しては、怪しいものを食べないように気を付けていたほか特別なことはしていないが、大病や大怪我もなく無事に留学生活を終えることができた。ただ、海外での初めての一人暮らしでストレスが溜まり疲れやすさを感じることもあった。</p>
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)	<p>・毎月の生活費とその内訳</p> <p>月あたり約800€ 家賃: 335~340€ 食費: 約200€ 保険料: 80~90€ その他(通信費・文具書籍・生活消耗品・娯楽費など)</p> <p>・留学に要した費用総額とその内訳</p> <p>合計約7000€ 生活費×6ヶ月分: 約4800€ 航空賃: 約1400€ 旅費・郵送費等: 約800€</p>
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)	<p>東大から案内を頂いた、全学交換留学付随の奨学金を受給していた(The Fung Scholarship、月8万円)。</p>
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)	<p>大学での学習以外に特別な活動は行っていないが、週末に、学生団体が主催する遠足に参加したり、友人と個人的にミュンヘン市内やバイエルン州内の都市を訪れたりした。アドベントの時期にはミュンヘン内外のクリスマス市を巡り、年末年始の休みにはフランスやスイスなど国外へも足を延ばしてみた。</p> <p>また、ミュンヘン市内にはミュージアムやコンサートホールなど芸術関係の施設も充実しており、入館料が1€になる日曜日に美術館を訪れたり、学生割引を利用してオーケストラやクラシックバレエの鑑賞に出掛けることもあった。</p>

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

ミュンヘン大学によるドイツ語の授業は行われていないが、IUCMやDKFAといった大学併設の語学学校が、学期開始前・授業期間中ともにドイツ語講座を開いており、語学学習の選択肢は充実しているといえる。私はIUCMが開講している授業期間並行のコースを履修した。語学の知識を増やすだけでなく他国からの留学生と知り合う良い機会でもあったが、授業週2回各90分と短めで、何より夜遅くに開講されるのが難点であった(コースによって日時は異なる)。

また、ミュンヘン大学にはバディ制度があり、希望すれば留学生一人につきミュンヘン大の学生が一人、チューターとして生活面や手続き関係など幅広くサポートしてくれる。ビザ申請に付き添ってもらったり一緒に出掛けたりしている人もいたが、私はバディとほとんど会わずメールのやり取りのみであった。学期開始直前にJapanologieの教授による日本人留学生向けオリエンテーションがあり、他大学からの留学生との顔合わせができたほか手続きや履修関係の情報も得られた。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

大学のメインの校舎に中央図書館があるが、前もって検索・予約して貸し出しする形式のようで一度も利用しなかった。各学部ごとにそれぞれ図書館があり、そちらは基本的に開架式で書籍も非常に充実している。私が頻繁に利用していた教育学部の図書館は、綺麗な建物で自習スペースも十分に確保されており快適であった。試験期間になるといずれの図書館も非常に混み合い、図書館によっては所属学部生のみ利用を許可するといった対策が取られることもある。また、貸し出しを行っていない図書館があり、自宅で文献を読もうと思っていたのに借りられず戸惑うことがあった。一方で、図書館の本は自由にコピー・スキャンでき、ドイツ語でしか手に入らない文献を日本に持ち帰るのにとっても役立った。

食堂は安く食事を済ませるためによく利用したが、質はほどほど。前述のように閉まる時間が早く夕食時に利用できないのが残念であった。

メインの校舎をはじめ複数の校舎にPC室があり、私はメインの校舎と教育学部のPC室を利用していた。どちらも不自由なくPCを使用でき、室内にコピー機もあり便利だったが、前者の方がPCが新しく環境も快適なのでおすすめ。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

これから行う予定だが、秋・冬に行われるインターンシップ等に参加できなかったことで少し不安を感じている。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

留学で学んだ内容が就職活動に直接影響することはないかもしれないが、卒業を一年先に延ばし、半年間家族と離れて留学生活をしたことで、自分自身を客観的に見つめ直し、自らの気持ちに向き合う時間がとれたと思う。せっかく学んできたドイツ語を活かせたら良いなという気持ちもある一方、留学するにあたってサポートしてくださった職員の方々のように自分も学生を支援する仕事に就きたいという思いもある。志望業界や職種は未だ決めきれずにいるが、留学前に比べて進路のことで過剰に不安になったり悶々とすることはなくなった。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|--|--------------------------|
| | 1. 研究職 |
| | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| | 3. 公的機関(機関名:) |
| | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| | 5. 民間企業(企業名又は業界:) |
| | 6. 起業(分野:) |
| | 7. その他() |

留学を振り返って
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
<p>今回の留学では、大学での授業で語学力や専門分野の知識を習得できたのもさることながら、ドイツ人学生と共に授業に臨む中で、自分の思考の浅さや物事への無関心さに気づけたこと、学生の様子から日独の教育に関して考えるきっかけを得られたことが特に有意義な点であった。また、ドイツ人学生や他国からの留学生に加え日本各地からの留学生とも知り合えたのも、留学してよかったと思う点である。実に多様な考え方・価値観に触れることで、多少なりとも自分の視野を広げることができたのではないかと思う。</p> <p>さらに、はじめて家族と離れて海外で暮らしたことで度胸や行動力がついた気がするのと同時に、一人での生活を通して両親や兄弟のありがたみにも気づくことができたという点でも個人的には大きな意義があったと思う。</p> <p>学業面でもその他の面でも何かと困難に突き当たるが多かったが、苦勞しながらもどうにか切り抜け半年間の留学生生活を終えることができた、そのこと自体にも達成感を覚えている。</p>
②留学後の予定
<p>卒業を1年延ばすので、(院に進学する可能性も捨てきれないが)就職活動を行いつつ、留学中に学んだ内容を深めて卒業論文を執筆できればと考えている。</p>
③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
<p>留学を迷っているのであれば、ぜひ思い切って決断することをお勧めします。もちろん留学生活は決して楽しいことばかりではなく、言葉や文化の壁にぶつかったり、環境の変化に戸惑ったり、思い描いていたように順調に進まず悩むこともしばしばあると思います。私自身、かねてから憧れていた「留学」のイメージや理想とは大きくかけ離れた実際の留学生活の中で、自分の不甲斐無さに落ち込んだり、「留学して良かったのだろうか」と思い悩むことすらありました。が、留学生生活を終えた今この半年間を振り返ってみると、確かに欲張って掲げた目標をすべて達成することはできなかったものの、語学や専門科目の面でも、物の考え方や行動力などの面でも、(めざましい変化ではないにせよ)半年前の自分にはなかったものを得ることができたと、自信を持って言えます。掲げた理想通りの生活にならなくとも、懸命に過ごした留学生活で何も得られないなどということは決してありません。せっかくのチャンス、あまり気負いすぎず、思い切って決断してみてもいいのではないでしょうか。</p>
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
<p>ミュンヘン大学の留学生向けのページ http://www.uni-muenchen.de/studium/studium_int/index.html ミュンヘン市の公式サイト(住民登録やビザの申請時に参照) https://www.muenchen.de/rathaus/Stadtverwaltung/Kreisverwaltungsreferat/Buergerbuero.html このほか、過去に留学された方々の体験記も大変参考になりました。</p>
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2017年8月10日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	ルードヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	<input checked="" type="checkbox"/> 5. 民間企業(業界: 金融)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

ルードヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン(通称ミュンヘン大学、LMU、以下ではミュンヘン大学に統一)は、1472年に創立された長い伝統を持つ大学だ。バイエルン州にあるミュンヘンというドイツ第3の都市に位置しており、学術レベルはドイツ随一、かつヨーロッパでも上位にランク付けされる。18学部に44000人もの学生を擁している巨大な総合大学である。

留学した動機

高校生の時から漠然と留学したいという思いがあった。大学に入った後に、優秀だと感じる知人の多くは帰国子女ないし留学経験があるということを実感して、海外経験を積みたいという思いが強くなり、留学を決意した。留学先を選ぶ際には、当時変動の時期にあったヨーロッパを最優先とし、その中でも英語教育が充実し、学生ビザでも就労の機会を得られ、かつ物価もあまり高くないドイツを留学先とした。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2016年	学部3	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2016年	9月~	2017年	7月	
	学部3	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2017年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2016年	学部4	年生の	11月頃に	行った
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			52	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			16	単位
	留学後の取得(予定)単位			12	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2014年	4月入学	2018年	3	月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	4年		ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					

就職活動を本格的に始める前に留学したいと考えていたため、3年時に留学することにした。(結果としては、留学中に就職活動を始めることにはなってしまった。)加えて、3年時での留学でも、きちんと単位を取りさえすれば、学年を落とすことなく留学が可能だとわかったことも、その時期に留学をすることにした理由の一つである。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

ミュンヘン大学は授業の開始が10月と遅く、手続き開始時期が他大学に比べて非常に遅い。そのため、7月辺りになってもどこに住むのかすらわからないというのは若干の不安があった。ただ、ミュンヘン大学の国際課は非常に親切なため、疑問点はメールを送ればきちんと返信してくれる。到着後の手続きに関しても、指示通りこなしていけば問題はない。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

学生ビザを取得した。日本のパスポートでは、入国後90日までビザ無しで滞在できる。基本的に11月辺りに取得しに行くことになるのだが、この時期の移民局は非常に混雑している。自分は3時間ほど待った挙句、別日の予約を取るという事態になった。期日までに取得できない場合は仮ビザがもらえると聞いたことがあるが、慌てないためにも早めにビザを取得しに行くことをお勧めする。また、経済能力の証明書が必要で、これは日本でドイツ大使館に行って取得するものなので、きちんと出国前に取得して行った方が良い。(自分は出国後気づき、父親に迷惑をかけたので)

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

医療費に関してはドイツで強制加入させられる保険で賄われると聞いている。(自分は幸いにも病院へ行く事態にならなかったのによく分からない)ただ、日本から自分にあった風邪薬はしっかりと持って行った方が良いと思う。予防接種などは特に必要がなかった。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京大学での付帯保険に加えて、ドイツの保険に加盟する必要がある。選択肢は基本的にTKとAOKという2つの会社が提供する保険があるが、違いはあまりないと思う。(自分はTKに入っていたが、そもそも保険を利用する事態にならなかったの、よく分からない)月々約80ユーロと、正直言って痛い出費であったが必須なので仕方が無い。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

自分は留学に際し、大変多くの質問をその都度経済学部の教務課に尋ねたが、親切に対応してくださったので感謝している。留学の手続きは正直言って大変な作業だと思うが、疑問点がある場合は質問をすれば、きちんと助けてくれるので遠慮なく質問すると良い。特に、4年で卒業したいと考えていた自分は、単位互換に関する質問を何度も行った。人生を左右することなので、納得するまで質問を繰り返すべき。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

海外経験のない自分は、英語に関して受験程度の実力しかなかったが、もともと英語を伸ばすことが留学の主目的の1つであったので、あまり気にしていなかった。(後々大変苦勞することにはなったが。)ドイツ語に関しては、もともと第二外国語がスペイン語で、全く触れておらず、暮らしていくうちに慣れていけばラッキー程度に捉えていたこともあり、ほとんど勉強しなかった。(これに関してはそれほど苦勞はしなかった。)

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

ドイツは先進国のため、必要なものは基本的に手に入るが、日本食はどうしても高いので、海外の食事のみで大丈夫というわけではなければ、日本から調味料などを持っていくと良い。(自分は、一度に大量に作ることができ、かつ簡単で美味しいカレーを重宝していた)
冬は大変寒くなるので、暖かいコートは必須だと思う。ただ、服に関しては最小限持参し現地で買って捨てるのが得策だと考える。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Corporate Finance	2	●	Human Resource Management Basics	2	●
People and Organization	2	●	Innovation & Organization	2	●
Key Topics In Leadership	2	●	Capital Market	2	●
Risk Management	2	●			
Japanese Economy	2	●			

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

ミュンヘン大学の経営学部では基本的にレクチャーとチュートリアルがセットとなっているため、1授業に対し2コマある。レクチャーはまさに講義を聞き、エクササイズで問題を解いて実践するという形式である。自分はあまり予習はせず、復習に時間を割いていた。印象に残った授業は組織論の授業で (Organization & Innovation)、毎度グループワークを行い成果を提出するものであった。ヨーロッパの留学生は真面目なため議論が弾み、力がつく実感が得られた。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

自分は冬学期に5授業、夏学期に3授業を履修した。ただ、授業自体のレベルはそれほど高いわけではなく、課題もほぼ無い。自分は、勉強の他にも様々な経験をしたかったので、授業の無い時間をまとめて作り、友人との旅行や、インターンシップにも時間を使った。ただ、その分テスト前だけはきちんと勉強しなければならない。学習時間のイメージとしては日本の大学とあまり大差は無い。自分のやる気次第という点が似ている。

④学習・研究面でのアドバイス

ミュンヘン大学は、先述した通り課題は多くないため、授業にそれほど時間を割かないという履修の仕方も十分に可能である。つまり、自分が留学先で行いたいと思っていることと、授業の両立は十分に可能であり、自分の優先順位を省みてうまく時間を使うべきだと思う。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

自分は海外長期滞在経験が初めてで、また周囲がほとんどヨーロッパ人という環境に慣れず、最初の頃は会話して友達を作ることすら非常に大変だった。ドイツにいる留学生は英語のネイティブが多く、また非ネイティブでも非常に英語がうまいため、最初は引け目を感じてしまし、そもそも聞き取れないということも多いと思うが、そこで思い詰める必要は無い。自分は若干思い詰めて悩んでしまうことも多かったが、それではせっかくの留学が辛いだけになってしまうので、自分のペースを大事に生きていくのが大事だと思う。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

交換留学生は、ミュンヘン大学付帯の不動産が寮を割り当ててくれる。寮は基本的に大学から20分くらいの場所に点在しており、寮によって部屋の種類が異なる。自分が住んでいた寮はWGと呼ばれるタイプでキッチン、バス、トイレを6人でシェアしていた。寮によってはキッチンだけシェアする場合や、完全に一人暮らしのような家に住める場合もある。家賃は基本的に300-350ユーロほどである。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候に関して、冬は想像を超えて寒く日も短い。自分の考えるこの留学先の大きな欠点は冬の厳しい寒さで、自分がふさぎ込むことは多々あった。寒い日は無理をしないことが肝要だと思う。交通機関は非常に充実しており、半年あたり220ユーロほどで市内交通が乗り放題となる。お金に関しては、こちらでは銀行口座の開設が必須となるため、銀行を開設し両親に奨学金を送金してもらっていた。不足分はクレジットカードのキャッシングで補った。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

ミュンヘンは非常に治安が良く、真夜中2時などに外を歩いていても盗難や強盗などの犯罪は基本的にはなにも起きない。テロに関しては若干の不安があったが、自分にはどうすることもできなかったため、あまり気にせずに人混みなどにも行っていた。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

約 800ユーロ
家賃 300ユーロ
携帯料金 25ユーロ
保険代 80ユーロ
雑費 400ユーロ

・留学に要した費用総額とその内訳

800ユーロ×11ヶ月分=8800ユーロ
(航空券 1500ユーロ
旅費など 2000ユーロ
約12300ユーロ(うち奨学金は6800ユーロ)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東京大学の経済学部から奨学金を月8万円頂いていた。ただ、留学開始時に一括支給となるため、使い方は計画的にした方が良い。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

自分はミュンヘン大学留学時の後期に、金融機関でインターンを行っていた。ドイツはアメリカなどと異なり学生ビザでも一定のインターンは可能であり、そのメリットを生かした。また、長期休暇はミュンヘンの地の利を生かして、ヨーロッパの様々な都市へ行った。特に、チェコやハンガリー、ロシアなど、日本からはあまり行かないが、非常に魅力ある国々を周ることができたのは大変良い経験だった。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

ほぼミュンヘン大学の国際課に直接お世話になることはなかったので詳しくはわからないが、こちらが書類の作成などを依頼しても丁寧にに対応してくれるなど、非常に親切であった。また、国際課とは関係無いが、ミュンヘン大学には日本語学科があり、ドイツ語を学びたいならば、日本語学科の生徒と語学パートナーとなってドイツ語を上達させることができる。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館で本を借りたことは無いが、勉強のためによく利用していた。荷物を全て預けなければいけないのが若干面倒だが、それでも問題なく使える。ただ、試験期間は非常に混み合い使えないことが多い。スポーツ施設は、ミュンヘン大学から多少離れた場所に位置するオリンピック公園に設備が多くあると聞いた。ただ、自分はそこから若干遠くに住んでいたのでほとんど利用しなかった。食堂で提供される食事は美味しく、また安いので重用していたが、夜は閉まっているのが非常に残念であった。PC環境に関して、基本的にeduroamを使っていたが、日本で設定していなかったことによって若干面倒であったため、日本で設定しておくことを強く勧める。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

留学は良くも悪くも日本にいた時より時間ができやすいので、自分の進路について見つめ直す機会が得られる。海外経験が多い職に就こうと思っている人は、留学をしてみることで本当にそれが自分にとってやりたいことなのか、というのも実感できると思う。また、留学中の就職活動についてだが、様々な地で開催されるキャリアフォーラムに行くのは非常に有益だ。自分はポストンキャリアフォーラムに参加したが、非常に貴重な体験ができた。ただ、この大学は7月まで留学期間となっているため、日本の7月選考や、3年生の場合はインターンの選考にも被ってしまう。就職活動を優先したい場合はその点もよく鑑みるのが得策。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

ポストンキャリアフォーラムに参加する場合、10月頃に大量の電話面接をこなすことになる。留学先に到着してすぐはバタバタし、なかなかエントリーシートなどに時間を割けないので、出発前にある程度エントリーシートを書き、面接対策などを行っておくべきだ。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|---|--------------------------|
| | 1. 研究職 |
| | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| | 3. 公的機関(機関名:) |
| | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| ✓ | 5. 民間企業(企業名又は業界: 金融) |
| | 6. 起業(分野:) |
| | 7. その他() |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学は、自分の予想していたものとは異なり、苦難を大いに味わうものだった。自分の場合は、授業というよりも語学の問題によるコミュニケーションや気候に苦しむこととなった。しかし、これらの経験は日本で普通に大学生をしていては絶対に得られない経験だった。人生において、自分の意思で、安定したコミュニティから抜け出すのは学生時代の留学しかなく、その意味で、今回挫折を含めた色々なことを若い内に経験できたことは、自分にとって非常に意義のあるものだ、と改めて感じる。どう成長したか、と聞かれるとなかなか具体的に言葉にするのは難しいが、期間中は色々人生について考える機会も多く、全てを含めて人間として成長できたと感じる。少なくとも、語学の部分は絶対に向上した。

②留学後の予定

就職活動の続きとしてボストンキャリアフォーラムで参加権を得た、証券会社の夏期長期インターンシップへの参加と、卒業のための単位取得。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

①とかぶりますが、留学というのは、必ずしも楽しいばかりでは無いと思います。もちろん、楽しいことも大いにありますが、日本で暮らしているだけでは体験できない苦難や葛藤というのを必ず経験することになるでしょう。自分も大いにそれらを経験しましたが、留学を終えた後では自分なりに良い経験ができたと思えますし、使い古された安い言い方ではありますが、本当に自分の価値観は広がりました。東大は留学が必須で無いため、留学を経験するには自らその環境に飛び込んでいく必要があります。その自発的な挑戦によって得られる経験値は必ずや日本で暮らしていた以上のものになることは間違いありません。自分に享楽だけではなく苦難も経験しようという覚悟と、豊かな知見を得たいという好奇心がある人には是非留学をお勧めします。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特にこれといったものはなかったが、東大の諸先輩方の留学体験記(<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/administration/go-global/program/experience.html>)を参考にしたり、友人や先輩の留学体験を積極的に聞いていた。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2017年8月10日

東京大学での所属学部・研究科等:	人文社会系研究科	学年(プログラム開始時):	修士1
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	ミュンヘン大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

バイエルン州立大学で、通称LMU (Ludwig-Maximilians-Universitätの略)。タイムズ・ハイヤー・エデュケーションの世界大学ランキングは30位、ドイツ国内では1位。創立年は1472年と歴史があり、第二次世界大戦中の反ナチス運動の一つである白薔薇の拠点になったことでも有名な大学である。

留学した動機

筆者はヒッタイト語という古代語を専門にしており、ミュンヘン大学はヒッタイト研究が世界で最も盛んな大学の一つで、図書館やデータベース、講座などが充実しているため。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2016年	修士1	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2016年	8月~	2016年	8月	
	修士1	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2017年	修士2	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	年		年生の		月頃に
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位		22	単位	
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位		14	単位	
	留学後の取得(予定)単位		2	単位	
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2016年	4月入学	2018年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	2年		ヶ月間		

⑨留学時期を決めた理由:

卒論を書いている時にちょうど全学交換留学の申し込みがあり、これからヒッタイト語という言語を研究しようと考えたと日本で文献などを集めることに限界を感じた。また、先生方にも行ける時にできるだけ早く留学したほうがいいというアドバイスをいただいた。語学に不安もあったが、当時の語学要件であるドイツ語B1には達していたのでダメ元で申し込んだら通ったという感じだった。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

ミュンヘン大学に留学していた先輩から、代々受け継がれてきた手続きの手引きのようなファイルをいただいたので、とてもスムーズだった。これから留学される方も、遠慮なく今まで留学した人にコンタクトをとって手引きファイルを手に入れると良いと思う。また、インターネットの入学手続きのときに申し込むと、ミュンヘン大学の学生がボランティアで自分のパディになってくれるので、諸手続きにも付いてきてもらうと心強いと思う。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは学生ビザで、場所はKreisverwaltungsreferat、待ち時間がとても長く、昼から行くと3時間以上待たなければいけない。ビザの取得には一定以上の収入の証明が必要になるが、JASSOからの奨学金(8万円)ではその条件(下限額)が満たされないため、渡航前に日本の独大使館に両親に来てもらい、証明書を発行してもらう必要があった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

常備薬を多めに持って行った。予防接種は特にしなかったが、山や森に行くならダニ脳炎の予防接種をしておいても良かったかもしれないと思った。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

私の時は、東大から絶対に付帯海学に入る必要があると言われ、ミュンヘン大学からは付帯海学では入学許可ができないと言われたため、TKという保険にもミュンヘンに入った。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

留学しつつ修士を2年で卒業する計画を立てていたため、修士論文を書く要件として留学前の半年で単位を16ほどとってから留学する必要があった。最終的に22単位とってから留学したが、かなり忙しかった。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

語学レベルはB1で、留学前の半年はゲーティンスティチュートに通った。また、8月からドイツに行き、大学が始まる前に語学講座に2ヶ月通った。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

ドイツで本をかなり買ってしまい荷物が増えたので、持参するものは少なくしたほうが良いかもしれない。ドイツ語の参考書はドイツで語学学校に通う場合教科書を買うことになるので、必要最低限で良いと思う。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)
※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
IUCM-Deutschkurs	12	●	Hethitisch II	3	
Religion des Alten Orients	3		Hattisch	3	
Hethitisch I	6	●			
Hethitische Beschwörungsrитуale	3				
Flip Englisch	3	●			

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

冬学期は専門のヒッタイト語の講読の授業(演習)が週3回あり、予習(翻訳)の作業に常に追われていた。夏学期はヒッタイト語の授業が週1コマだったので、自分の研究をしたりドイツ語や英語を勉強する時間があった。先生が前で話すタイプの講義は予習などがあまり必要でなかった。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

大学の授業は週に4コマくらい、ドイツ語コースが週に2コマくらいだった。日本で単位を十分にとっていたので試験やレポートを書かずに聴講だけしていた授業もあった。春休みや空き時間は論文を書いたり自分の研究をしていた。締め切り前やテスト前は一日中机に向かってはいたがそれ以外はのんびりする日も多かった。日本にいた時と比べると授業は少ないが語学にさく時間が長かった。

④学習・研究面でのアドバイス

私のドイツ語が未熟だっただけかもしれないが、留学生活では外国語で全ての活動をしなければならないので、生きているだけで日本にいるときより2倍くらい常に疲れを感じていた。学習、研究面では日本にいるときと同じくらいのパフォーマンスを求めてしまうと苦しいので、気合をいれて頑張りすぎないほうが良いかもしれない。私も含めストレスなどで体調を崩す人が多かった。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

ドイツ語は日本にいるときから読み書きは得意だが会話が苦手なタイプで、語学学校で自分にあつたレベルを探すのに苦労した。渡独直後に通った読み書き能力重視の語学学校ではB2.2のクラスで会話についていけなかったが、その後移った会話能力重視の大学の語学学校ではB1.1のクラスになり読み書きの練習が簡単すぎたりした。ドイツにはタンデムパートナーという文化があるので、インターネットで日本語を勉強したいドイツ人を探してお互いに会話練習をしたりした。

生活について

①宿泊先(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

交換留学生用に大学が用意している寮に住んでいた。家賃は月255.80ユーロ。古いが部屋は広く快適だった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

寮の部屋は暖房設備がしっかりしていて、冬場外はとても寒くても部屋の中はとても快適だった。一方夏場はかなり暑い日もあるにもかかわらずクーラーがなく、暑い日もあった。交通機関は学生用のSemesterticketというものを買うことができ、一度買うと半年間ミュンヘン中の電車やバスを使うことができた。食事は基本的に自炊で、お金はドイツで銀行口座を作りオンラインバンキングの手続きをして日本の自分の口座から海外送金していた。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
自分が滞在していた時期はヨーロッパでテロが頻繁に起こっていた。気をつけても防ぎようがないが、テロにあったときの対処を調べたり、人混みをさけたりしていた。結局スリなども含めて一度も犯罪にあうことはなかった。医療機関は東大で入付帯海学を利用していたので、ミュンヘンにいる日本人医師を紹介してもらうことができた。
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
・毎月の生活費とその内訳
7、8万円くらい(寮費255.80ユーロ、食費1、2万円くらい、その他本代、保険料(TK)、語学学校代、交通費、旅行代など)
・留学に要した費用総額とその内訳
ドイツの口座の記録をみるに13ヶ月で8500ユーロくらい+飛行機代35万円(春に一度帰省した分を除けば26万円ほど)。実際には日本の住居の引っ越し代や保険料(付帯海学)などでもっとかかっているかもしれない。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
全学交換留学派遣用奨学金(JASSO)月8万円×11ヶ月
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
寮の近くにEnglischer Gartenがありよく散歩に行った。日曜日はミュンヘンの美術館、博物館が1ユーロになるので絵や彫刻などを見に行った。長期休暇はベルリンやウィーンを旅行して自分の専門の古代オリエント系の博物館に行ったり、Mainzにあるヒツタイト学研究所に研究しに行ったりした。ミュンヘンで行われた学会にも参加した。
派遣先大学の環境について
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
ドイツ語の語学学校を幾つか用意しているが有料。ドイツ語以外の言語は英語、ヨーロッパの言語、アラビア語などいろいろな言語が無料で用意されていて私は英語の講座を受講していた。入学手続き時に申請するとバディというボランティアの学生が一对一で留学生をサポートしてくれる。諸手続きを手伝ってもらうこともでき、私は博物館などを案内してもらったり、作文を見てもらったりした。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
図書館は学科ごとにいくつも非常に充実している。食堂は幾つかあるが昼食の時間帯のみ。多くの場所でeduroamが使えるので日本でアカウントを取得しておくが便利。
留学と就職活動について
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど
研究職を目指しているためまだ就職活動を行っていないが、留学中に学振の申請ができたので、かなり忙しかったこと以外あまりデメリットはなかった。アカデミックポストを探す場合は留学が評価される場合もあるとのこと。
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください	
	1. 研究職
	2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:)
	3. 公的機関(機関名:)
	4. 非営利団体(団体名又は分野:)
	5. 民間企業(企業名又は業界:)
	6. 起業(分野:)
	7. その他()
留学を振り返って	
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感	
<p>留学したことで日本では絶対に得られない研究成果が得られ、論文を出したり学会発表したりすることができたので、それだけで大いに意義があったと思うが、ドイツ人や語学学校で知り合ったいろんな国から来た友達のおかげでいろいろな価値観を知ることができ、自分の中で考え方の幅が広がったというか、より自由になったように思う。また、世界各国の情勢や社会問題に関することなど、多くのことを学ぶことができた。ドイツ語や英語で書かれたものを以前より早く理解することができるので、得られる情報が増えた。</p>	
②留学後の予定	
<p>日本に戻って修士課程を終え、博士課程に入学する予定である。</p>	
③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス	
<p>私が留学するか悩んでいた時、相談した先生方は皆、思い立ったらできるだけ早く留学した方がいいという助言をしてくれました。語学力の心配があっても、留学した方が語学の勉強はしやすい環境ですし、要件を満たしていれば思い切って行ってみるといいと思います。大変なことも多かったです、行く前に想像していたよりとても楽しかったですし、これからの人生を豊かにしてくれる経験が得られると思います。</p>	
その他	
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物	
<p>語学・情報収集: Deutsche Welle, Süddeutsche Zeitung, 留学生活: ドイツ生活情報百科 (http://www.seikatsu-joho.de)、ドイツ留学研究会 (http://tobitate-german.com)、タンデムパートナーを見つけるコミュニティの情報あり)</p>	
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。	
<p></p>	